

「能登棚田米」のブランド化と棚田保全活動を一体的に進める取組みを支援しています

奥能登農林総合事務所

能登地域に多く存在する棚田は、国土の保全や美しい景観を形成するなど多面的な機能を有していますが、傾斜地であるため、平坦地の水田に比べると、作業効率や生産性が劣るため、耕作放棄地化が懸念されています。

このため「能登棚田保全活動協議会」（奥能登の4 J Aと市町・県等で構成）では、棚田のような条件不利地でも米づくりが継続できるよう、地元産米の販促活動に取り組むこととし、棚田において、農薬や化学肥料を慣行より5割以上低減して栽培したコシヒカリを「能登棚田米」と称して、ブランド化を図っています。この取組みは、棚田のイメージと環境に配慮しているという付加価値を高めることで、農家の所得向上を支援するとともに、美しい能登の景観保全に寄与することを目的としています。

当事務所では、実証ほの設置や栽培指針の作成、研修会の開催により生産技術の向上を支援しているほか、「能登棚田米」の販売・PR状況等のトピックスや栽培管理情報を生産者に伝える「能登棚田米通信」の発行を通して、生産者も一丸となった意識の醸成を図っています。また、全生産者の米をサンプリングし、品質や食味分析の結果を「お米通信簿」として生産者全員にフィードバックしています。

この「能登棚田米」は、主に地元の量販店や飲食店が取り扱っていますが、石川県のアンテナショップでも販売が開始されたことで、今後は首都圏での認知度も高まることが期待されます。当事務所では今後も、協議会や生産者部会と一体となって、能登棚田米のブランド価値をより一層高め、米づくりの継続を支援するとともに、能登の美しい棚田景観を守っていきたいと考えています。



棚田保全活動に参加したボランティア



生産者部会現地研修会の模様

問い合わせ先：農業振興部（0768-26-2323）